

【発行】大船渡仮設住宅支援事業

〒022-0004

岩手県大船渡市猪川町字長洞 62-1

大船渡仮設住宅支援事業事務局内

TEL : 0120-628-638

E-Mail : ofnt_otoiawase@yahoo.co.jp

Web : http://ofunatocity.jp

大船渡仮設住宅 支援員新聞

No.10
2013.

5月号



▲ 津波が襲来して、辺りには何も無い。建物の2階がフリークスとなっている

LIVE HOUSE FREAKS 代表
菅野 安宣さん

Qなぜ大船渡にライブハウスを作ったのですか？
東京の音響会社が発足した「東北ライブハウス大作戦」というプロジェクトなんです。岩手の宮古、大船渡、宮城の石巻の3箇所にライブハウスを作ろうという活動です。アーティスト、音楽

ファンや関係者など、いろいろな方向からの被災地に対する思いを、ライブハウスを通して伝え、発信していこうというものです。
Q海に近い被災した建物を利用したのはなぜですか？
あそこしか無かったんですよ。借りられる所はみんな

再開事業所が入っていたし、そういう人たちが本来使うべきだと思つて。新規事業なんです。タイミング的にも選べるような場所があまりなかった。
Q先日は高校生バンドのライブイベントが行われたようですが、どんな思いで企画したんですか？
僕とは別に店長がいるんですが、彼が主に企画しま

あの人にインタビュー
地元の若者たちの場所を、「おっさん」が作る

大船渡には「ライブハウス」というものがあります。主に音楽好きが集い、音楽に触れ合う場所。元々あったものではなく、震災後、津波に浸かった建物を利用して作られました。このライブハウス「FREAKS」の代表菅野さんは、陸前高田市の仮設住宅に住んでいます。自身でもバンドを組んで活動し、また近年注目を集めている「ケセンロックフェスティバル」(KRF)の実行委員会事務局長も務めています。

待ちわびた復興への汽笛
三陸鉄道南リアス線が運行再開

「ポップー…」遠くから聞こえてきた汽笛の音に、「おかえり三鉄！待ってたよ三鉄！おめでとう!!」と歓迎の声が響き渡ります。震災から約2年。運行不能だった南リアス線が復旧作業を終え、盛く吉浜駅区間の運行を再開しました。

南リアス線の一部運行再開を祝し、4月3日に記念式典が開かれました。

この日の天候はあいにくの雨。しかしそんな天気とは裏腹に、メイン会場となる吉浜駅には約500人もの人々が集まりました。公募で選ばれた88名の乗客を



▲ この後はケセンロックの会議だそう

した。みんな地元の利用という思いが強く。地元でバンドって言うのが高校生っていう感じがするんだけど、将来を考えると、高校生にこれから使っていくってほしい。本当は勉強に励むところだろうけど、発表する場が在るのと

乗せた一番列車が吉浜駅に到着すると、たくさんの方々が鉄道ファンが旗を振りながら「おめでとう」の歓声とともに笑顔で出迎えました。駅前の特設会場では吉浜中学校生徒による、よさこいソーランや、千歳明神太鼓などの歓迎セレモニーに加え、ゲストに志村けんさんや藤原紀香さんなどが招かれ、雨の寒さを忘れるほど熱気に溢れていました。

一足早くサクラ咲く

津波をまぬがれて無事に残った「奇跡の列車」の一両と吉浜駅の駅舎は、鮮やかな

無いのでは、バンドに限らずモチベーションでやっばり違う。そういう場所を提供できたかなと。

気仙沼の高校生も参加したんですよ。そういう他の学校との交流もおっさんが作る。親とかも来て喜んでくれて。何やつても意味のないこととは無いと思います。

Q KRFという田舎の音楽フェスが話題になっていますが、アーティストやお客さんに愛されるようになった理由は何ですか？

とにかくやれる範囲でやろうという事を曲げていない。規模を大きくして欲しい

ピンクの桜のデザインで華やかに包まれました。また、志村けんさんの発案により、吉浜駅の線路を渡す歩道橋にも桜と、幸運を運ぶ馬とされる「ダーラナホース」が描かれました。これは女優の川上麻衣子さんがデザインし、この歩道橋が「三陸と世界をつなぐ架け橋」となつてほしい」と願いを込めたそうです。

三陸鉄道では来年4月の南リアス線全線開通を目指しています。振り返れば私も三陸鉄道には思い出があり、子供会行事で利用したり、高

って声はすぐくあるんだけど、無理せず自分達も楽しめる内容で。最近ではケセンロックっていう色が出てきたと思う。このままそれをキープしたい。他のフェスのいいところは真似したりして、でもケセンロックらしさっていうのを自分たちでわかって、守っていけたらいいかな。

Q地元と音楽がどういう関係になっていったらいいと思いますか？

地元から離れた場所で、自分の地元を自慢できて誇りを持てる。そういうのを作ろうっていうのがKRFの結成当時のテーマで。そこ



▲ 手旗で迎えらる一番列車。

校の時は当時好きだった人の家に遊びに行くのに利用しました。「ガタンゴトン」と心地良く揺られ、窓から見える青い海に癒されたことを思い出します。たくさんさんの思い出が詰まった三陸鉄道が早く全線復旧することとを、私自身一人のファンとして心から願っています。

を隠すか自信もって言えるかって事だけでも、自分の地元との付き合いって変わると思うんです。

遠野はカップパで有名じゃない。あれ結構うらやましいんだよね。こっちには有名な昔話ってないでしょ？カップパとケセンロックじゃないけど、そういう誇れるもの、きっかけをお膳立てするのが我々中年の仕事かな、と。そしてやっぱり地元に残ってしまった若い人間が感化されて、引き継いでいくっていう流れができたらいかな。

支援員ニュース おじゃましまーす

末崎町 平林仮設団地

眺めのいい談話室で



▲ 開放感!!

今回は末崎町、平林仮設団地におじゃましました。平林仮設団地は末崎中学校のグラウンドにあり、市営球場に建っている大田仮設団地と隣接しています。

こちらに勤務している支援員は2人とも末崎町に住んでおり、住民の方々とも話が合う様子。支援員として気を付けていることはありますか?と聞くと、「なるべく傍に寄ってつて、こちらの言葉で堅苦しくなく、だけでも失礼にならないように話しかけるようにしている」とのことでした。取材の時も談話室には住民の方々が数人来ており、「○○さん、お茶つこ飲まい」「○○さん身体具合どうなの

す?」などとやりとりをしていました。

いつでも気晴らしに

談話室の窓からは門之浜湾が見え、とてもいい景色が臨めます。住民の方々も「ここあ眺めいいんだなあ」と言いながら外を眺めています。

実は平林仮設団地には、これまで皆で集えるような場所がなく、火曜と木曜を平林優先の日として大田仮設団地の談話室を利用していました。しかしこの4月に新しく専用の談話室ができ、曜日を気にせず、気軽にイベントを行うことができるようになりました。



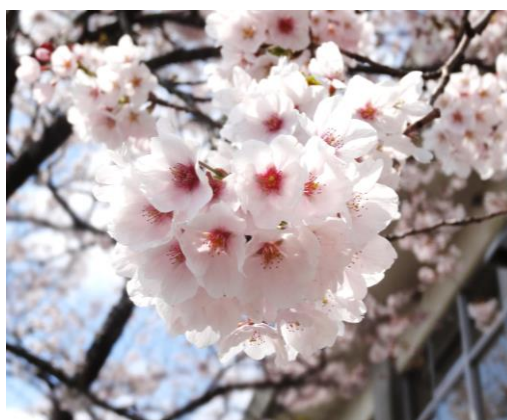
▲ 奥の青い服の方と、ピンクのベストの方が平林の支援員です

「これから少しずつ仮設に住む方々の状況が違ってくるでしょうが、みなさんがいつでも集まって頂ければ」と、新しい談話室の活用を考える支援員。「家の外にあまり出ない方や、元氣だけれど身体にあちこちに不調が生じてきている方もいる。そういった方々の氣晴らしや健康に役買うために、どうやって談話室に来ていただくかな、と考えています」と話してくれました。

可愛らしい桜の花に 気持ちもほっこり

今年も待ちにまった桜の便りが届きました。4月4日、大船渡市内でも早咲きで知られている、大船渡保育園の園舎裏の桜が開花しました。淡いピンク色の可愛らしい花に園児もにっこり笑顔。外遊びも、より一層楽しくなりそうです。

9日には盛町の体育センターの横に植えられた標本木の開花が確認され、



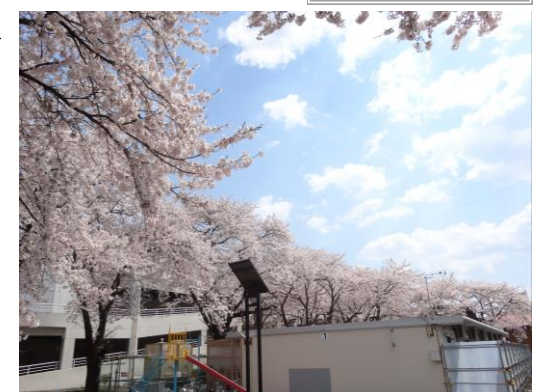
▲ 標本木の桜は満開(4月22日撮影)

どのくらい咲けば「開花」なの?

ところで皆さん、桜の「開花」とはどういう基準なのかご存知ですか? 満開に咲いたから開花? 1輪でも咲いたら開花? そんな皆さんの疑問にお答えしま

す! 実は「開花」とは花が5〜6輪咲いた時に認められます。そして実際にマスコミなどでは「開花宣言」を発表するそうです。今回、体育センター横の標本木では、5輪以上の開花を確認したため「開花宣言」に至りました。

震災にも負けず、3度の春の訪れを知らせてくれた標本木。まだ津波の爪跡が残る風景の中に咲き誇る桜は、多くの人に勇気を与えています。この桜を見て気持ちもほっこりしました。



▲ 盛町の木町仮設住宅団地は桜でいっぱい!

今月のスマイル

食べちゃうのもったいない!!



▲ めんこ〜い! あ、それもいいなあ

ストの復活を祝うお祭りです。イースターの日には、カラフルに色づけられた卵を飾りつけます。

4月3日、盛町の沢川仮設

を描きます。集会所に集まった住民の皆さんは、小さくて丸い卵に絵を描くのに苦戦。「卵さ絵描くのなんか初めてだ」「なんと難しいなあ」

と、だんだん真剣な表情に変わっていきます。何の絵柄にするか悩みながら、水玉模様やギザギザ模様、お花や、けしのような可愛らしい顔が並びました。満足いたら今度は染める作業へ。

4月17日、冬のあいだ牧舎にこもっていた羊達も、被災した三陸公民館前の野原に放牧され、気持ちよさそうに駆け回っていました。



おおふなとの記憶

1ピースはめらい

編集後記

「はまらい」が早いものでもう10号! 10ヶ月も経つんですね、びっくり。まだまだつたないですが、精進いたします。

さてさて、「今月のいちまい」のコーナーが、先月から「おおふなとの記憶 1ピースはめらい」に変わりました。震災後、ゼロになってしまった街の風景。そこに新たな大船渡の日々を切り取って、パズルのように思い出にまた一つ一つ足していけたらな、と思ってつけました。新聞の名前とも掛けてあります。どうぞよろしくおねがいします!

最近はボランティアの方々と共に、イベントの数も減少してきています。私たちだけでは把握できていないイベントや団体も多数あるかと思います。はまらいに載せてほしい話題がありましたら、ぜひぜひ情報をご提供ください!! (S)

ご意見・ご感想は、こちらまで。
大船渡市猪川町字長洞 62-1
大船渡仮設住宅支援事業事務局内
TEL : 0120-628-638
E-Mail: ofnt_otoiawase@yahoogroups.jp